

「第21回講演と対話のつどい」

安倍政権のもとで、日本は何処へ向かうのか？

国粹国家主義に取り憑かれ、基本的人権・国民主権・平和主義をことごとく敵視する安倍首相とその取り巻き達、それに無批判に迎合する多くの無関心層の存在が、現政権の狂気ともいえる行動を容認しているといえるでしょう。

米国トランプ大統領の Alternative facts (オルタナティブファクト)、Post truth (ポストトゥルース) という言葉が流行語のようになっていますが、これらは安倍政権がすでに多用してきた手法でもありました。過去の歴史を顧みず、未来を見据える理念もなく、みっともなくトランプに擦り寄る姿は世界の笑い者になっています。安倍首相を筆頭に閣僚の多くが国粹主義を信奉する「日本会議」に属し、国政運営にも不吉な影を落としています。安倍政権が醸し出す危険な反知性主義が日本の安全保障と国民生活、学術研究を含め広く経済、科学・技術、教育の分野にはびこり悪影響を与えています。つくばにおいても、身近な研究所に「軍学共同」の動きが及んでいます。

今一度、憲法の視点に立ち戻りこの危険な状況を考えてみましょう。

日時：2017年5月14日(日) 13:30~16:30

会場：小野川交流センター 1階会議室

(つくば市館野477-1、Tel: 029-838-0501)

講演：「憲法の視点で日本の安全保障と軍学共同を考える」

田村武夫氏 (茨城大学名誉教授：公法学、憲法学)

全体討論：

どなたでも、自由に参加できます。(参加無料)

会場 / 小野川交流センター、会議室(1階)



KANDINSKY / Développement en brun

Toile peinte à Dessau après la fermeture du Bauhaus le 20 juillet 1933

カンディンスキー「褐色の中の展開」：1933年8月、ナチスにより廃校に追い込まれたバウハウス(Bauhaus)閉鎖直後に描かれたドイツにおける最後の作品。バウハウスは第1次世界大戦の後ワイマール共和国が成立した年に、新しい芸術、美術運動を目指して開校された学校だった。褐色はナチス(軍服)の色・・・?

連絡先：安田公三 (TEL, FAX 029-847-3884) <http://peace.arrow.jp/tsc/>

主催：筑波研究学園都市研究所・大学関係9条の会